

第1回池田町学校あり方検討委員会 会議録

日 時：令和7年6月16日（月）10：00～11：55

場 所：池田町役場 3A会議室

出席者：検討委員会委員 22名

池田町長、池田町教育長、事務局 5名

1 開会

2 町長挨拶

皆さん、おはようございます。本日は大変お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、この度の学校あり方検討委員会を組成するにあたって、皆様に様々な依頼を差し上げたところ、ご承諾をいただきまして、重ねて礼を申し上げます。この名称のとおり、我が池田町も、今後の学校をどのように運営・維持をしていくかといったテーマについて、皆様から忌憚のないご意見を頂戴したいというふうに思っているところでございます。

これは私と教育長が日々相談しながら話している内容ですが、少し現状をお話ししますと、今、子どもたちが置かれている状況は、若年層の自殺者数が高止まりしている、子ども自体の数が減っているにも関わらず、一定レベルから減少していかないといったことです。それからコロナ禍を通じて、終わってからも学校へなかなかいけない子どもたちが増えてしまった。子どもの数が減っているにもかかわらず、不登校者数が増えている。こうしたことに對して、非常に憂慮を持っております。

おそらくこちらにお集まりの方々、私も含めてですけれども、皆さんも小学校中学校に通われた際は多くのクラスがあっただろうと思っております。クラス一つですら維持ができないような時代がもうすぐそこまで来ております。少人数教育というような言葉が踊りますけれども、行政もチャレンジするということは大事ですし、チャレンジしてうまくいなくても、失敗したらそれはもう一回やるんだというようなことは様々なところで言うようですし、また会社もそうだろうと思います。

しかし、この子どもの教育ということに関しては失敗ができないというふうに私は思っております。幼少期に施された、もしくは経験したことが、その一人一人の子どもたちの将来に大きな影響を及ぼすというところを冷静に、謙虚に考えた時に、責任が持てるのかということに、私自身は非常に恐怖を感じております。

最近の不登校の理由をアンケートで取りますと、不安とか無気力というような返答が返ってくるそうです。冷静に考えてみたところ、学校の先生や親御さんたちが子どもに知識や何かを伝えていくというのは当然必要なことですし、大事なことで、これも教育の欠かざる項目ではあるんですけれども、子ども自身が経験を通して自分で学び取っていくということも、非常に大事な教育の側面ではなかろうかというふうに思っております。

どういうことかと言いますと、大人数の中で自分自身が多くのお友達と交わる中で、話し方とかコミュニケーションの取り方、そして困った子がいるときに手を差し伸べていく、もしくは差し伸べられた手を躊躇することなく握るとか、そうしたことは経験を持ってしか学び取れないことなんだろうなというふうには私は思っています。そうした経験の場をより子どもたちに提供し続けられるかどうかは我々にかかっているんじゃないかなんて、そんなふう考えている訳です。

非常に高い関心を持って、教育行政にあたっております。岐阜のとある小学校で多世代教育というのでしょうか、5年生が1年生を教えたり、1年生が5年生のお姉さん、お兄さんに学んだりというような取り組みがあつて、私の学んだ環境にはなかったことも取り入れながらやっていたらっしゃいます。

その目指すところは、ソーシャルスキルというような言い方をされます。横文字が最近踊りますけれども、要は社会的に生きていくための技術というようなことなんでしょう。それはコミュニケーションですよね。その効果としては、高学年の5年生が小学1年生2年生の子に教えることによって自己肯定感が上がった。要は下級生が「僕が教えた・私が教えたことを喜んでくれた」というのを見ることで、自己肯定感が強まった。また小さい子は、小学1年生、2年生の子は「お姉さんやお兄さんがこんなに優しい人で、教えてもらって本当に分かりやすかった」というようなことも感想として出ています。

我々は子どもたちに何を教えるべきか、何を提供すべきかということについては、いずれもう10年も経たないうちに社会人になるわけです。彼ら彼女らはその時に、自分の足でちゃんと自分の人生を歩んでいける子どもを育てていかなければならないという一点に対して、我々は一生懸命やっていきたいなというふうに思っております。

学校環境では、いじめだとか本当になくしたい思いがあります。これについては池田町行政も教育委員会も高い関心を持っていこうとしておりますけれども、皆さんもお分かりのとおり、社会に出てからもあります。いじめは残念ながら、そういうことに自分自身がなった時に、いかに乗り越えていくかということが非常に大事なことです。幼少時期、学校の時代もいじめなんか会わない方がいいですし、しない方が当然いいわけですがけれども、そういう中でも致命的に命をなくしてしまうとか、自滅的に相手を追い込んでしまう前に、大人たちが手を差し伸べることで、お互いのいさかいを融和させて、喧嘩して余計に仲良くなったということも私の経験上もありますし、そうしたことをいかに経験して、人間形成を図っていくかということは、おそらく私は経験上でしか物が言えませんが、ある程度の人数がいないと教育というのは施せないんだと思います。

今回教育大綱の大きな文言も少し手を加えさせていただきましたけれども、全ては子どもたちの未来のために、この一点に対して、今回の皆様のご意見がそこを目指した議論があらわれることを望んでおります。非常にシリアスな話題ではございますが、できれば明るい未来に向かって、気を少し緩めて、この会議が運営されることを望んでおります。本日はよろしくお願いいたします。

3 委嘱状交付

4 委員紹介

5 委員長・副委員長選出

事務局：今後の検討委員会の議事を進行していくにあたり、委員長及び副委員長の選出をお願いしたいと思います。池田町学校あり方検討委員会設置要綱の第四条におきまして、委員会に委員長一人、副委員長を一人置く。また、委員長及び副委員長は委員の互選により定めとなっております。委員の皆様に出選につきまして、審議をお願いしたいと思います。何かご意見がございますでしょうか。

それでは意見もないようですので、事務局から推薦案を提示させていただいてもよろしいでしょうか。

複数委員：異議なし

事務局：ありがとうございます。それでは事務局から推薦します。検討委員会委員長を岐阜経済大学の竹内治彦委員、副委員長を森哲也委員をお願いしたいと思っておりますが、委員の皆様、いかがでしょうか。

複数委員：異議なし

事務局：ありがとうございます。それでは承認いただいたということで、委員長を竹内委員、副委員長を森委員にお願いします。竹内委員長は前方の委員長席に移動をお願いいたします。ここで竹内委員長にご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

6 委員長挨拶

ただいま委員長にご指名いただきました竹内です。大変重い責任をいただきました。とても緊張しているところでございますけれども、町長さんからお話にあったように、子どもの未来に向けて取り組むという意見を踏まえて進めていきたいと思います。

状況として少子化が進んでいるということと、最近の子どものコミュニケーションが変化してきている点があります。一つには携帯電話の影響、もう一つには直近の問題としてコロナの影響で、非常にコミュニケーションが弱くなっているということが大きな課題になっています。

この会議について、二点考えていることがございます。まずは未来に向けてということです。少子化は2019年からさらに加速しています。今の話だけではなく、10年後20年後を見据えていかないと、今見て判断するのでは結果として遅れてしまうので、未来を見据えた検討をしていきたいと思います。

二点目として、たくさんの委員の皆さんにご参加いただいているので、多方面からの視点があると思います。課題に対する考え方も様々あると思いますが、それをただ披露するだけでは何もまとまりません。一つの原理原則というか、大切にしなければならないことを考えたいと思います。それは、子どもたちにとって何が最善かということ、しっかり見据えていくことです。

今ではなく未来を考え、子どもたちを大事に考える。この二点をベースに考えていければと

思います。皆さんそれぞれのご意見をどんどんおっしゃっていただいて、最終的には事務局の皆さんにまとめていただければと思います。簡単ではございますが、就任のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

7 諮問

事務局：それでは次に検討委員会へ諮問書を手交いたします。池田町長から竹内委員長に対しまして、諮問をお願いしたいと思います。なお、委員の皆様におかれましては、本日の資料の中にございます諮問書の写しをご覧ください。それでは町長よろしくお願いいたします。

町 長：池田町学校あり方検討委員会委員長様、町立保育園及び学校教育の望ましいあり方について（諮問）池田町では本年度、全ては子どもたちの未来のために、を掲げた教育大綱を定めました。その中で今後の少子高齢化社会を見据えて、未来に向けた新しい町立学校を住民とともに検討を行う、を掲げています。この目標実現のために、保育園及び町立小中学校の将来を展望した望ましい教育環境のあり方について委員会に検討を依頼し、その意見を求めます。

諮問事項

（1）保育園及び小中学校の適正規模適正配置に関する基本的な方針について

（2）前項に掲げる適正化のための具体的な方策について

池田町長 竹中 誉。よろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございます。ここで事務局から本検討委員会設立に至った経緯を説明させていただきます。周知のとおり、近年全国的に少子化が急速に進む中で、町内の学校においても児童生徒数の減少が続いております。これに伴い、小規模校の増加や教職員の確保、教育環境の維持といった課題が顕在化しております。

池田町の現況を見ても、人口は平成 22 年をピークに減少傾向に転じ、今後も減少に歯止めがかからない状況が続いております。本町の学校の設置状況は昭和 55 年に池田小学校は開校されて以降 45 年間、現在組合立の養基小学校を含む小学校が 5 校、中学校が 1 校となっています。町内の保育所は、公立保育園が組合立を含めて 4 園、その他四つの私立認定こども園と一つの私立幼稚園がございます。

また令和に入ってから以降、社会の変化がより一層激しく複雑化、そして多様化する中で、国においても人口動態を踏まえた学校運営や学校施設のあり方について検討の必要性が示されております。

こうした状況を踏まえ、本町では将来を見据えた持続可能な学校教育のあり方について、総合的に検討する必要があるとの認識から、この度池田町学校あり方検討委員会を設置する運びとなりました。

本日は第 1 回の会議となりますので、池田町の保育園や学校の状況の説明を聞いていただくという会になると思いますが、今後の進め方や検討の方向性についてもご確認いただきながら、皆様からの忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それではこれより竹内委員長に会の進行をお願いしたいと思います。竹内委員長、よろしく願いいたします。

8 議事

委員長：それでは、まずは委員会の成立要件についてご説明をお願いいたします。

事務局：本日の検討委員会は池田町学校あり方検討委員会設置要綱第五条の規定に基づき過半数の出席をいただいておりますので、本委員会は成立しておりますことをご報告申し上げます。

また会議の議事録の公開について説明させていただきます。本検討委員会は設置要綱第五条第6項の規定に基づき原則公開により開催し、傍聴を認めることとしております。傍聴は池田町教育委員会傍聴人規則を準用して行います。ただし、委員の申出があれば会議に諮り公開しないことができます。

続きまして、会議録は設置要綱の第五条7項の規定に基づき、公開させていただき、委員の皆様の発言等をホームページ等でお知らせすることとします。その際には発言された委員の名前は公開せず、どの委員が発言したかを伏せた議事内容を要約した会議録をホームページ等に掲載したいと考えております。以上でございます。

委員長：それではこれから議事を進行させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。まず、冒頭のご説明の前にちょっと確認ですが、この会議は「学校あり方」ということで、小学校の部分と保育園の状況、両方が取り扱われておりますけれども、この辺りの経緯を含めてご説明をお願いしたいと思います。

事務局：なぜ保育園の今後のあり方を今回の学校あり方検討委員会で一緒に協議していただきたいかといましては、本来は教育である学校と民生部門である保育施設等を一緒に検討していくことは、担当部署が違うと考えております。また小学校は小学校区が決まっていますが、保育園は保護者の自由で保育施設を選ぶことが可能でございます。しかしながら池田町の保育園児の80%強が小学校区の保育園に入園している状況であります。これが今現在池田町の特色でございます。それをもってして保護者の思いとしましては、保育園と小学校は切っても切れない、続いているものだという感覚で保護者たちは捉えています。

また池田町は過去に保育施設単独で令和2年度から保育園の統廃合及びメリットを進める案がありました。しかし、その中で保護者ニーズとして「入園している少ない保育園を統合しても、小学校に入学した際、また少人数学級になってしまう」「保育園だけで再編を考えても意味がない」という意見を多数いただいております。

以上を含め学校あり方検討委員会で小学校のあり方を検討する際に、保育園も合わせてどうしていくのかを検討していただきたいと考えております。

委員長：ありがとうございました。ということで小学校のあり方を検討していくとともに、保育園・幼稚園についても合わせて検討していただきたいというのが、今日の趣旨ということで、そういう形でこの会も運営させていただきます。この点についてよろしいでしょうか。

複数委員：異議なし

委員長：ありがとうございます。では、池田町の状況につきまして、議案の説明をお願いいたします。

事務局：私からは事前にお配りしました資料の「池田町こども数の推移」と書かれた横向きの資料と、「公立保育園・私立認定こども園園児数の推移」と書かれた横向きのカラーの資料、縦向きの「公立保育園・私立認定こども園施設の状況」の3点の資料について説明させていただきます。

まず、「池田町こども数の推移」と書かれた資料をご覧ください。こちらは平成30年度からの実際の子どもの数と、令和8年以降は母親の年齢別出生数をもとに推計した子どもの数です。また、それぞれの年度で0歳から5歳までの合計、6歳から11歳までの合計、12歳から14歳の合計を掲載していますが、0歳から5歳までの合計が保育園児の数、6歳から11歳までの合計が小学生の数、12歳から14歳までの合計の数が中学生の数を表しています。

この表を見ていただきますと、平成30年には0歳から5歳までの園児が1,073人いたのが、令和7年度では658人となり、7年間で415人減り、38.68%減少しております。また6歳から11歳までの小学生の数については、平成30年には1,434人いたのが令和7年度では1,037人となり、7年間で397人減り、27.68%減少しております。また12歳から14歳までの中学生の数については、平成30年には790人いたのが令和7年度では712人となり、7年間で78人減り、9.87%減少しております。

これを令和11年度まで推計してみると、平成30年には園児が1,073人いたのが令和11年度では529人となり、11年間で544人減り、50.70%減少することが想定されます。また6歳から11歳までの小学生の数については、平成30年には1,434人いたのが令和11年度には783人となり、11年間で651人減り、45.40%減少することが想定されます。また中学生の数については、平成30年には790人いたのが令和11年度では549人となり、11年間で241人減り、30.51%減少することが想定されます。

全体で言いますと、14歳までの子どもの数が平成30年度には3,297人いますが、令和11年度には1,861人になることが想定され、1,436人の減少で43.55%減少することが想定されます。

続きまして、「公立保育園・私立認定こども園園児数の推移」と書かれた資料をご覧ください。この表は池田町の公立保育園施設と認定こども園の園児数の推移です。

表の一番左でございますが、宮地・温知・八幡・養基の下に合計8個の保育園が並んでおります。上の4つの園が公立保育園、下の4つの園が私立認定こども園となっております。左から2列目の「建設時の定員」でございますが、こちらは建物を建てた時の定員です。その後定員の変更があり、現在の定員は左側3列目の「利用定員」の欄の数字となっております。

4列目以降が園児数の推移でございます。こちらは平成30年度からの実績と、令和8年度以降は令和7年度の入園率から推計しております。また池田町の保育園に通っている町外の園児もあります。4段目の養基保育園は揖斐川町との組合立保育園になっ

ております。養基保育園の園児の内訳は下段の括弧の数字でございます。例えば平成 30 年ですと、養基保育園の園児の総数は 85 人で、うち 45 人が揖斐川町の子どもとなっております。

また私立認定こども園には広域入所で他の市町からも入園している園児がおります。人数は下段の総数の左側に赤字で書かせていただいた数値が町外園児の人数となっております。

こちらについても平成 30 年当時公立保育園の園児数で、養基の園児を除いた合計が 337 人なのが、令和 11 年度には 165 人となり、172 人が減少することが想定されます。また私立認定こども園についても、町外の園児を除いた数字で平成 30 年当時 313 人いたのが令和 11 年度には 170 人となり、143 人が減少することが想定されます。池田町在住の園児の合計も平成 30 年度から 332 人減少することが想定されます。

続きまして、縦向きの資料で「公立保育園・私立認定こども園施設の状況」と書いた資料をご覧ください。こちらは保育園の所在地や建設定員、経過年数等が書いてあります。左から 5 列目の園児数については、令和 7 年 6 月 1 日現在の人数でありますので、先ほどの資料の人数は 4 月 1 日現在の園児数ですので、多少ずれがあります。ご了承ください。

こちらの資料を見ていただきますと、一番上の宮地保育園については建設時の定員が 80 人であったのに対し、現在の園児数は 19 人となり、園舎も築 43 年と老朽化が進んでおります。次の温知保育園については、建設時の定員が 180 人で、現在の園児数が 123 人、築 20 年となっております。次の八幡保育園については、建設時の定員が 210 人であったのに対し、現在園児数は 37 人となり、園舎も築 47 年となっております。ほかの園についても同様に見ていただきますと、建設時の定員よりも園児数が減少しており、施設も老朽化しております。こういった保育園の状況となっております。今後園児数が減少していき、施設がより老朽化していく中で、このままでいいのかということを検討したいと考えております。

何より子どもたちにとって一番いい形の保育園にしていきたいと考えております。このまま全て残した方がいいのか、統廃合した方がいいのか、または他にいい案があるのか、いろんなご意見をいただきたいと思います。また、保育園だけではなく、保育園から小学校中学校までの一貫した教育に関して考えていきたいと思っておりますので、小学校とも連携して同じ方向性で行きたいと考えております。

委員の皆様もそれぞれの立場でいらっしゃいますので、いろんな意見があると思います。たくさんのご意見をいただいて、子どもたちにとってどういった形が一番いいのかを検討したいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

事務局：続いて私からは事前にお配りをさせていただきました「町内小学校児童数の推移予測」と書かれた横向きの資料と、縦向きの「小中学校施設の状況」と書かれた 2 枚の資料について説明をさせていただきます。

まず「町内小学校児童数の推移予測」と書かれた資料です。こちらは小学校児童数です。池田町には 4 つの小学校と、養基小学校の池田町分の子どもを含んだ数となって

おります。養基小学校にはご承知の通り、池田町と揖斐川町の子どもが在籍しており、組合立になっています。

学年別に色分けしてありまして、一番下の緑色が1年生、一番上のオレンジ色が6年生となっております。また、令和7年までは実数で、令和8年度以降は母親の年齢別出生数をもとに推計しております。

この表を見ていただくと、一番左の平成30年度には1,434人であった児童数が、一番右の令和17年度には推計であります。約3分の1の529人となっております。減少率については平成30年度から令和7年度の7年間では27.6%の減少だったものが、令和7年度から令和17年度の7年間では39.1%の減少が見られ、減少率が大きくなっていることがわかります。

続きまして、縦向きの資料で「小中学校施設の状況」と書かれた資料をご覧ください。こちらは学校ごとの施設の状況です。校舎・体育館・プール別に建築年数がありますが、見ていただいておりますのとおり、校舎で比較的新しいものが温知小学校と八幡小学校になっており、それ以外の校舎は全て築40年以上が経過しております。

築40年以上の学校については、ほとんど大規模改修という改修を行っておりますが、水道管などの設備までは改修できていないのが現状です。また体育館についても全ての学校で築40年以上となっております。またプールにつきましては、一番新しく温知小学校の築20年です。八幡小学校については40年経っておりますが、令和5年に大規模に改修工事を行っております。池田小学校のプールは45年が経過しており、修繕必要箇所が多くある現状です。

また右の方に空調機について掲載させていただいております。空調機につきましては、校舎についての空調機はすべての学校で設置しています。これは普通教室、児童が普段学習・生活する教室にはついておりますが、理科室とか音楽室、家庭科室などの特別教室には一部ついていない教室がありますので、全ての学校で「部分的」となっております。また体育館の空調につきましては、池田中学校に昨年令和6年度に空調設置しましたので「設置済」となっておりますが、その他の体育館については空調未設置ですので「未設置」となっております。指定避難所となっている各学校の体育館の空調については、防災機能の面からも設置が望まれています。

一番右にLED照明について掲載させていただいております。現在の蛍光灯は2027年には製造終了となることや、また環境や電気代の面でもLED対応が完了しているのは宮地小と池田中学校の校舎のみで、他はできていないのが現状です。

施設の維持や改修には当然ながら大きな費用がかかり、今後どのように整備していくのかを検討することが大変重要となってきます。私からの説明は以上です。

教育長：少し補足をさせていただきたいと思います。これは池田町の地図です。地元の方はご存知のことですけれども、企業の方もお見えですのでご説明差し上げます。池田町はこういう形ですが、この一番上の養基地区と書いたところの右側あたり、これが実は揖斐川町です。養基小学校と養基保育園があるところです。

養基小学校と養基保育園は組合立というものです。組合立というのは揖斐川町と池田

町で共同管理をしているということで、そのメインは池田町が担っていて、私がその教育長も務めさせていただいています。そのため、養基保育園と養基小学校について検討するときには、揖斐川町も一緒に考えていただかなければいけないということで、今日は脛永地区の代表区長もご出席いただいています。なお、揖斐川町も先日の新聞発表にもありましたが、学校のあり方について検討を始める予定で、養基小学校・養基保育園については両町で検討していくことになっております。

また、クラス数の状況についても説明させてください。学校側からするとクラス数というのは非常に重要です。なぜかというクラス数に応じて教員が配当されるからです。教員は池田町で雇うのではなく、国からの予算で配置されます。例えば 12 クラスの学校だと 14 名の教員、14 クラスだと 17 名といったように配置されます。

生徒数が減っていくとクラス数も減っていきます。そうすると例えば 14 クラスあったところが 13 クラスになると、翌年は教員が 2 名減ります。12 クラスから 11 クラスになると 1 名減るという形です。現在、クラス数は減少傾向にあり、教員の配置にも影響が出ています。

もう一点、特別支援学級についても説明させてください。通常学級が減少する一方で、特別支援学級は増加傾向にあります。特別支援学級は定員が 8 名で、普通の学級の定員は 35 名です。特別支援学級の場合、8 名ごとに教員が 1 名必要になります。現在、16 の特別支援学級があるため、16 名の特別支援学級の担任が必要になります。

このように児童生徒数全体は減っているにも関わらず、特別支援学級の児童が増えていたため、教員不足という状況も生まれています。

それから、文部科学省が示す学校の標準的な規模は、12 クラス以上 18 クラス以下が望ましいとされています。つまり 1 学年に 2 クラス以上 3 クラス以下が望ましいということですが、現状ではクラス替えができないような規模の学校も出てきています。参考資料として、文部科学省から「公立小中学校の統合を考えている皆様へ」「公立小中学校の適正規模のあり方について」という資料をお配りしました。これらは次回以降の会議で話題にさせていただければと思います。

委員長：ありがとうございました。たくさんご説明いただきました。まとめますと、学校あり方の検討の背景には、少子化に伴った統合の問題があると思います。その中で池田町としても検討せざるを得ない状況にあるということです。

人口減少の問題に加えて、二点のご説明がありました。一つは施設が相当古くなっており、大規模な修繕や更新・新設が必要になってきているという点です。多くの施設が耐用年数に近づいているという状況です。また空調や LED 照明の更新も必要で、これらはかなりの費用がかかります。

もう一つは教員の配置の問題です。文部科学省の規定に基づき、生徒数・学級数の減少に伴って教員の配置も減らされていくということです。これは教育の質にも関わる重要な問題と思われます。

このような状況について、皆様からご質問やご意見を伺いたいと思います。

委員：町内のある小学校は単学級化が進んでおります。昨年は 1 年生と 3 年生が単学級でし

たが、今年は1年生から4年生までが単学級ということで、かつては全て2クラスあった学校でしたが、今は全校の半分以上が単学級という状況で運営をしております。こうなりますと、学年部が成立していて、先生同士で相談をしたり、分担をしていたりしていた業務が全て一人の教員に集中していきます。学級運営や授業準備、個別の資料、保護者の対応など、多岐にわたる業務を一人で抱え込むという状況に陥りやすくなっています。ベテランの教員も一人で学年を持つことに不安があるということをよく相談されます。このような状況の中で、個別に支援が必要なお子さんに対してのきめ細やかな支援が難しくなるという課題を抱えております。

委員長：ありがとうございます。お一人で担当していくのは大変だと思います。私も県の教員の働き方やハラスメント問題の対応委員をしていますが、一人で様々な事案を担当するのは現在ではほぼ不可能に近い状況です。これは相当憂慮すべき状況だと思います。

委員：この資料を見させていただいて、事務局の方が大変丁寧にお作りになられたなと感心しております。素晴らしい教育をしようと思ったら実は簡単で、お金をかければいいんです。ところが実際には予算は限られています。その予算の中で何ができるかを考える必要があります。

これからどこかの保育園をなくす話になると思いますが、例えば保育園を廃止した場合、池田町がどれだけお金が節約できるのかといった視点も必要ではないでしょうか。池田温泉が赤字を抱えていたり、町職員の給料が低かったりする状況の中で、どこかでお金を節約していかないといけません。人口が減るということは税収も減るわけですから、支出と収入のバランスを考えた時に、財政の視点もこの資料に加えてもいいのではないかと思います。

委員長：ありがとうございます。マイナスの話だけでなく、お金を集中することで素晴らしい施設にできるという可能性もあるということですね。そういう前向きな視点も大切だと思います。

委員：小学校と同様に、保育園でも複式学級ではありませんが、3・4歳児が同じクラスになっている園もあります。また0・1・2歳児のクラスでも、それらが1クラスになっている園が町内に2園あります。

年齢に応じた同年齢のクラスが望ましいと思われませんが、町長の挨拶にもありましたように、ある程度の人数は必要だと思います。子ども同士が同年齢の中で関わり、関係を作っていくためには、一定の人数が必要です。

異年齢で育ち合うこともありますが、同年齢の保育がままならない状況になるのは難しいと思います。同年齢の保育が望ましいのではないかと思います。

また特別支援の話も出ましたが、保育園でもそのような子どもが増えています。保育士の確保のことを考えると、その点も視野に入れていただけるといいと思います。

委員長：ありがとうございます。他の委員からも何かご意見はありますか。

委員：子どもの学びの環境が大切だと思います。コミュニケーションが取りにくい子の背景を追っていくと、生育歴が関係していることがわかります。幼少期、小学校での学ぶ環境が大きく将来に関係してくると思います。

今回も最初に「子どもの未来のため」という視点が出ましたが、将来の子どもたちが社会で活躍できるよう、また心から幸せと感じられる人生を歩むために、この幼少期を大切にすべきです。不登校になるということは心に何か抱えているということです。池田町の教育資源や自然など様々なものを活かしながら考えていただけるといいと思います。

委員長：ありがとうございます。

委員：子どもが減ってきているという危機感は、あまり持っていません。情報が学校からも少なく、そういう危機感を持って日々の学校生活を送っていないというのが現状です。保護者の意見を聞いたところ、コミュニケーション不足があるということでした。今後中学校では一つの中学校になりますが、各小学校でコミュニケーション不足があるので、学校間でのコミュニケーションをまず取れるような環境を作ったり、各学年で学校間の交流を行ったりするなど、子どもたちが触れ合う場をもう少し作っていただけるとありがたいと考えています。

委員長：ありがとうございます。状況について保護者の方々にあまり情報が伝わっていないようですね。

教育長：1年ほど前から議論があったのですが、保護者の方々には十分に情報が伝わっていませんでした。今後はもっと情報提供をしていきたいと思います。

人口推計についてですが、これはほぼ確実なものです。母親の数がわかっているので、急に増えることはありません。推計値はかなり信頼性の高い数字と考えていただいて結構です。

委員：小学校の1年生が何クラスになるのかは気になるところです。支援級の話もありましたが、子どもたちにきめ細かく見ていただける環境が一番ありがたいと思っています。

委員長：ありがとうございます。教育長さんが説明された教員配置の資料についてですが、一般的に考えると生徒数が多いと細やかな対応が難しいように思いますが、ある程度生徒数の方が教員の役割分担ができ、様々な対応ができるということだったのでしょうか。

教育長：そうですね。専門性という意味では、ギリギリの配置だと一人の教員があらゆる事柄に対応しなければなりません。ある程度の規模があれば役割分担ができます。例えば保護者対応も分担できますし、教員が児童に向き合う時間も確保しやすくなります。

委員：私たちが子どもの頃は大勢でしたが、今は子どもが少なくなっています。当時は外でたくさん遊び、友達を作り、先輩からも様々なことを教わりました。今は一人で遊んでいる子が多く、関わり合いがありません。

子どもの人格形成を考えると、たくさんの子どものがいた方がいいと思います。学校が統合してどのような形になるかはこれから検討されると思いますが、ある程度の人数がいる環境で子どもが様々なことを学ぶ方がいいのではないかと思います。

委員：子どもたちが減少していく中で、親御さんも忙しくなっています。子ども会活動などの参加も難しくなっているという意見を聞きます。

私たちが小さい頃は地区で世話をする大人が見守る中、子どもたちが自主的に集まっ

て遊んでいましたが、今は家の中で過ごすことが多く、子ども同士のコミュニケーションが少なくなっています。町長も言われたように、経験を通して学ぶ場が少なくなっています。

私たちの時代は先生に叱られて、家に帰ると親からも叱られましたが、今では先生が責められる時代になりました。子どもに様々な経験をさせることが大切です。喧嘩をして、痛いと感じることで、「これはやってはいけないこと」と学ぶ機会が少なくなっています。子ども会やPTA活動も大切ですが、今後どのように子どもを見ていくかを考える必要があると感じています。

委員：持続可能な経営という観点が重要だと思います。「子どもたちの未来を第一に考える」という大前提で進むなら、持続可能な財務をどこまで考えるかが重要です。

今回のテーマである公立小中学校の統廃合と教育のあり方については、企業でも単に利益を追求するだけでなく、企業の存在意義や社員一人一人の成長が問われる時代になっています。小さい頃からの環境、家庭、学校、スポーツ、地域との関わりが非常に重要です。

現代は過去に直面したことの無い問題が次々と起こる難しい世の中になっています。答えのない問題をどう解決していくかが求められています。親自身も自分のことで精一杯で、子どもに関わる時間が少なくなっています。スマートフォンやゲームに夢中になる子どもたちを見て、このままでいいのかと思うこともあります。

皆さんと一緒に、子どもを中心に置いた良い答えを導き出せたらと思っています。

委員長：ありがとうございました。持続可能な経営という観点や財政面の検討も必要だというご意見をいただきました。例えば現在の学校体制を維持するためにどれくらいの費用がかかるのか、施設の更新にはどのくらいの費用が必要なのかなど、簡単なシミュレーションを出していただくと、議論の参考になると思います。ぜひそういった準備もお願いします。

委員：防災の観点から一言申し上げたいと思います。昨年8月に八幡地区で水害がありましたが、公民館が被災して使えず、八幡小学校も避難所として機能しませんでした。また宮地小学校では避難訓練が行われましたが、すぐそばを川が流れている環境にもかかわらず、その場所が避難所になっているという問題もあります。

先ほどの資料で避難所としての空調設備がないという指摘もありましたが、災害時の避難所としての機能も今後の検討課題として考える必要があるのではないのでしょうか。

委員：人口減少と少子化について10年ほど前から危機感を持っていました。

ハード面の問題も抱えています。施設の老朽化が進んでおり、プールや体育館の寿命が迫っています。皆さんの検討を2年間待つ余裕がないかもしれません。

そのため、この会議をスピーディーに進行してほしいと思います。皆さんの意見を聞いた上で対応せざるを得ないので、より良い未来の子どもたちのために議論していただきたいですが、近未来的な問題として捉えなければならないという事情もあることをご理解ください。

委員長：ありがとうございます。施設面の問題は緊急性が高いことが分かりました。スピード感を持って進めることが大切だと思います。事務局の皆さんは大変だと思いますが、なるべくスピーディーに進めていただきたいと思います。

委員：子どもたちの育ちの環境と、そのための場所のあり方は、分けて考える必要があると思います。

子ども中心社会の実現に向けて、子ども家庭庁ができるなど、やっと光が当たってきた状況です。子どもが減って大変だという状況はありますが、私たちが小学生の頃と比べると、今の方が一人一人に光が当たるようになってきたとも言えます。減ってきたからこそ、一人一人への対応が充実してきた面もあるのです。

幼稚園・保育園と小学校の連携は大切ですが、していることが同じではないという認識が必要です。例えば将来的に温知保育園だけになったとして、500人以上の小さな子どもたちが一か所に集まることが、子どもの育ちの環境として本当に良いのか、子育て世帯にとって良いのかを考える必要があります。単純に経済的な理由だけでなく、子育て世帯に魅力のある町であり続けるためにはどうすべきかも考慮すべきです。

0歳から18歳までの全ての子どもを同じように考えるのではなく、特に就学前の子どもたちの育ちの環境は別途考える必要があります。そのためには一定のコストがかかりますが、それをどこまで受け入れられるかが重要です。

現在、公立園も私立園も制度的・財政的背景が異なる中で運営しています。池田町としてどうしていくかを冷静に考える必要があります。幸いに池田町では、保育園が多機能化することで様々な子育て支援策を提供できる可能性があります。

この委員会の成果物がある程度イメージしながら議論できればと思います。特に保育園がどうなるのかは保護者にとって重要な問題です。具体的な形で今後の方向性を示していただければと思います。

委員長：この会議の方向性を確認しておきたいと思います。町長からの諮問事項として「保育園及び小中学校の適正規模適正配置に関する基本的な方針について」と「前項に掲げる適正化のための具体的な方策について」が示されています。これがこの会議のゴールとなります。

2年間の任期とされていますが、どこまでのものを出せるかについては議論しながら決めていくことになるでしょう。この会議だけですべてを決めるわけではなく、基本的な方針を固めていくことが目的です。その上で行政機関として町や教育委員会が決定することになります。

保育と教育の扱いについては、スタートは一緒に議論するとしても、まとめ方については部会などの形も含めて検討する必要があるかもしれません。また私立と公立の役割分担についても認識する必要があります。

教育長：次回の会議では、学級が減った場合の問題点についての資料や財政面の資料を準備したいと思います。また4回の会議を予定していますが、より具体的な話を進めていきたいと思っています。地域の方々の意見も聞きながら、アンケートなども検討しています。そういった材料をもとに次回以降進めていきたいと思っています。

委員長：資料は文部科学省の資料をそのまま配るのではなく、内容を要約したレジュメにしていた方が良いでしょう。また、少なくとも3回目くらいには事務局として方向性を示していただかないと、議論が進みにくいと思います。皆様のご意見を伺った上で、3回目くらいには事務局としての方向性を示していただければと思います。よって次回は皆様のご意見やアンケート内容を整理いただき、3回目には方向性を見定め、まとめていければと思います。

事務局：ありがとうございました。次回、第2回検討委員会は9月中に開催できればと思っています。委員の皆様の日程調整を行いながら日時を決定させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それではこれをもちまして第1回池田町学校あり方検討委員会を終了させていただきます。本日は皆様ありがとうございました。